



# ほっとほっとタイムズー第1号ー

2025.5.1

井荻小学校 特別支援教育校内委員会

教育アドバイザー住谷陽子

新年度が始まって早一か月がたとうとしています。皆様のお子様の様子はいかがでしょうか。

子どもたちの様子を見てみると、新しい先生や教室との出会いにちょっとドキドキし、ちょっとワクワクしながら毎日を過ごしているように見受けられます。1年生は学校での生活に少しずつ慣れてきた様子ですし、一つ学年が上がった子どもたちは成長した喜びを感じているのか、生き生きした顔をしているように見えます。しかしながら、学校は集団生活の場、いいことばかりではありません。そんな時の対処の仕方、迷いますね。価値観が多様化している現在、ちょっと長い目で考えてみることも必要です。

「子育て」って何なのでしょう。皆さんはどう考えますか？私は、子どもが大きくなったとき自分の力で生き生きと生きていく力を育てることではないかと考えます。「自分の力で生き生きと生きる」。誰も願うことではありませんがどうすればよいかと考えると、とっても難しいことですね。私は、まず「どんな自分も受け入れてくれる存在（安全基地）があると本人が思えること」と「自分は頑張ればできる存在だ」と思えることではないかと考えています。

子どもって実は失敗だらけの存在だと思うのです。はっきり言ってできないことだらけですよ。『できないけどわからないけど、やってみたらできた！』そんな経験の繰り返しでいろいろなことができるようになっていくのです。

「一緒に遊ぼう！」と声掛けたら「いいよ」と言ってくれて一緒に遊んだら楽しかった、よくわからなかったけど、やってみたらできた、など。けれども、いつもいつもうまくいくわけではありません。失敗することのほうが多いかもしれません。そんな時、大人の都合で頭ごなしに怒ってしまうと、挑戦しなくなるかウソをついてごまかすようになることが多いようです。失敗した時の嫌な気持ちを共感しながら、どうすればよかったかを一緒に考えて励ましてやることができれば、「失敗してもいいんだ」「頑張ることに価値があるんだ」ということがわかり、頑張れる子が育つのではないのでしょうか。子どもの「大丈夫！」をたくさん育ててやりたいです。

やる気になった時、子どもはびっくりするほどの力を発揮します。しかし、力で押さえつけた時、その場では言うことを聞くかもしれませんが、子どもの中に力は育ちません。逆にまた、子どもの言うままに何でもやってあげてもわがままになるだけで力は育たないのです。「自分で頑張ってやってできた」ときに子どもの中に自信（自己肯定感）が生まれます。だからこそ、失敗も含め、たくさん経験させてやりたいと思います。学校で今盛んに「主体的」「意欲的」という言葉が使われているのもそのためです。

誰もがわが子の幸せを願い、わが子の健やかな成長を願っていますが、「子育て」はなかなか一筋縄ではいきません。「子育ては親育て」とも言います。悩みながら親も育ていくということなのでしょう。学校と保護者の皆さんと一緒に悩みながら、子ども達を育てていきたいと願っています。（一人一人の支援に有効な「いおぎ教室」の申し込みは、5月と10月の2回だけです。もし、ご希望がある場合は、早めにご相談ください。）

運動会の練習も始まりました。気温の変化も激しい今日この頃です。生活リズムに気を付け、元気に毎日過ごせまよう、ご協力お願いいたします。